

総務省独立行政法人評価委員会 第31回統計センター分科会

1. 日時 平成24年 7月30日 (月) 10:00～12:00

2. 場所 総務省第2庁舎6階特別会議室

3. 出席者 (敬称略)

(分科会所属委員)

分科会長 佐藤修三

委員 岩田正美 椿広計

専門委員 磯部哲 引頭麻実 大場亨 小笠原直 小林稔 小巻泰之
藤原まり子 森末暢博

(総務省統計局)

福井統計局長 田家大臣官房審議官 須江統計調査部長 會田総務課長
向井企画調整担当課長補佐

(独立行政法人統計センター)

戸谷理事長 山下理事 北田理事

相田総務部長 羽瀧製表部長 山口情報技術部長 目黒総務部次長
油井経営企画室長 上田総務課長

4. 議題

(1) 平成23年度に係る業務の実績に関する評価について

(2) その他

(岩田分科会長代理) それでは、第31回総務省独立行政法人評価委員会統計センター分科会を開催いたします。本日の議題は、「平成23年度に係る業務の実績に関する評価」でございます。

それではまず、本日の議題について、事務局から御説明をお願いいたします。

(會田総務課長) 本日の議題につきましては、お手元の議事次第にありますように、「平成23年度に係る業務の実績に関する評価」について、御審議をお願いしたいと考えております。既に委員の方御承知の通り、独立行政法人は毎年度の業務の実績につきまして、独立行政法人通則法に定められている評価委員会の評価を受けなければならないとされております。毎年度の事業実績に関する評価につきましては、当分科会における議決を持って総

務省独立行政法人評価委員会、つまり親委員会の議決となりますので、よろしく審議をお願いしたいと考えております。本日は資料の方は、評価調書の案が1つと、参考資料を後ろに4つほど付けさせていただいております。それではよろしく申し上げます。

(岩田分科会長代理) それでは、議題(1)の「平成23年度に係る業務の実績に関する評価」について御審議いただきたいと思いますが、まず事務局から評価調書案について御説明をお願いいたします。

(向井企画調整担当課長補佐) それでは、事務局から評価調書案について御説明をさせていただきます。資料は資料統分31-1でございます。こちらに基づきまして説明させていただきます。この評価調書案につきましては、前回、第30回の分科会において御審議いただきました「統計センター分科会における評価の考え方」、それから「独立行政法人統計センターの業務の実績に関する評価基準」に基づき、先生方に評価をしていただいたものをまとめたものでございます。今御紹介しました資料につきましては、先ほど総務課長から御紹介いたしましたとおり、参考資料としてお付けしてありまして、資料番号は、参考統分31-3、31-4になってございますのでよろしく願いいたします。なお、今御紹介いたしました評価基準でございますが、製表に関する事項につきましては、平成23年度においては東日本大震災に係る対応を行っておりますことから、これを特別な要因として加味した評価をいただいております。資料は参考統分31-4の別紙、最後のページでございますが、こちらを御覧下さい。「統計調査の製表に関する事項の実績評価について」という説明紙でございます。ここがございますとおり、通常ですと統計調査の製表に関する事項につきましては、要員投入量の評価点と満足度アンケートの結果による評価点、こちらの合計で評価をいただいておりますけれども、なお書きがございますとおり、特別な要因があった場合はそれを加味するものとなっております。平成23年度におきましては東日本大震災に係る対応をこの特別な要因として加味していただくというような形で、また、可能な限り定量的な基準を設け分析をした結果を踏まえまして、加味していただいた評価結果となっております。具体的にはこの紙の下の方、「※2」のところがございますとおり、統計調査の公表予定に影響を与えることなく東日本大震災に係る対応を行っていることを基本としまして、対応にあたり要員配置計画のおおむね5%以上の調整を行った場合には50点相当の対応、おおむね10%以上の調整を行った場合には100点相当の対応として、加味していただくということになっております。なお、昨年度も東日本大震災に係る対応はございましたが、こちらにつきましては、平成22年度内の対応は、震災発生が3月でございましたのでごく短期間であったこと、職員等の出勤も困難な中、経常調査の公表を遅滞なく行うといった対応をしていただいたことを鑑みまして、定性的に分析を行って、その結果を加味して評価をいただいております。本年度はこの部分を出来るだけ定量的に、ということでこういった基準を設けておりますので、その点はまたこの後、御意見いただ

ければと思います。

それでは評価調書案の中身の説明に移らせていただきます。資料は資料統分31-1を御覧下さい。こちらの評価調書案につきましては、構成が、表紙にございますとおり、全体的評価表、項目別評価総括表、そして項目別評価調書となっております。資料を一枚おめくりいただきまして、目次になってございますが、こちらにございますとおり各評価項目の右端に評価を記載しております。平成23年度の項目別評価でございますが、AAをいただいたものが9項目、Aをいただいたものが22項目、Bをいただいたものが2項目となっております。なお、昨年度はB評価がございましたが、今年度は、後ほど御説明いたしますが、再集計等の影響がございましてB評価が2項目となっております。

それでは、ただいま御紹介しましたAAをいただいた項目、それからBをいただいた項目、その他主な項目についての内容を、項目別評価調書で御説明させていただきたいと思っております。

まず、AAをいただいた項目でございますが、内訳を御説明させていただきます。目次を御覧いただきながら御確認いただきたいと思いますのですが、評価項目の第1の1「業務運営の高度化・効率化に関する事項」、こちらはAAをいただいております。同じく第1の3「業務・システムの最適化に関する事項」、第2の1「国勢調査その他国勢の基本に関する統計調査の製表に関する事項」のうち(4)「経済センサス(基礎調査・活動調査)」、それから(5)「労働力調査」、(6)「小売物価統計調査」、(7)「家計調査」、一枚おめくりいただきまして裏面になりますが、3「統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に関する事項」、4「技術の研究に関する事項」、以上がAAをいただいた項目でございます。それぞれにつきまして、簡単ですが中身の御説明したいと思います。

まず評価項目第1の1「業務運営の高度化・効率化に関する事項」でございますが、こちら資料は64ページを御覧ください。業務運営の高度化・効率化につきましては64ページの下段の方、最後の段落のあたりにございますが、経常統計調査等に係る業務経費及び一般管理費、こちらの削減を「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」を踏まえ、「最適化計画」の確実な実施等を行った上で、きっちりと行っていること、また、その上のあたりにございますが、東日本大震災に係る対応を柔軟かつ迅速にしていること、また、次のページ、65ページの最下段にあります、業務運営の効率化に大きく貢献するOCR機の導入にあたりまして、平成22年国勢調査でいくつか障害が発生いたしました、その点を踏まえ、次期OCR導入の仕様書に盛り込むといった取組をしていること、こういった点を高く評価していただきましてAA評価となっております。

続きまして、第1の3「業務・システムの最適化に関する事項」につきまして御説明いたします。資料は72ページを御覧下さい。こちらは網掛け下線を引いておりますが、「最適化計画」の確実な実施によりまして年間経費を目標の3.9億円削減に対しまして6.3億円削減と、1.6倍上回って達成しております。この点を高く評価していただきましてAAとしていただいております。

続きまして、製表部分でございますが、(4)「経済センサス(基礎調査・活動調査)」でございます。こちらは資料の86ページを御覧下さい。こちらの項目につきましては、総投入量は計画より14%増となっておりますが、総務省統計局からの製表基準書類の提示の遅延等で業務が増えてしまった部分を除きましたところ、2%の減少となっております。また東日本大震災の対応におきまして、要員配置計画のおおむね5%以上の調整を行って早期公表等に対応していただいておりますので、この点を評価していただきましてAAとなっております。

続きまして、同じく製表部分でございますが、(5)「労働力調査」でございます。資料の89ページを御覧下さい。こちらは産業・職業分類の符号格付事務、それから審査事務において能率が上昇したこと等により効率化が図られまして、投入量が対計画比4%減となっております。また、東日本大震災に係る対応につきましては、要員配置計画のおおむね5%以上の調整を行って、被災3県を除いた集計、9月調査分からは被災3県を除いた集計と全国集計、それから基本集計等で被災3県を除いた集計についての遡及集計等の対応を評価いただきまして、AAとなっております。

続きまして、(6)の「小売物価統計調査」でございますが、こちらは資料92ページを御覧下さい。こちらは投入量が計画に比ばまして5%減となっていること、それから東日本大震災に係る対応におきまして要員配置計画のおおむね5%以上の調整を行って、平成23年3月調査分そして4月調査分の一部品目につきまして、東日本地域の15県庁所在地別の小売物価に係る集計を行っていること、こういった対応を高く評価していただきまして、AAとなっております。

続きまして、「家計調査」でございますが、こちらは資料の95ページを御覧下さい。こちらの投入量は計画に比ばまして12%減となっておりますが、こちらは東日本大震災の影響で調査世帯が減少したことと、どちらかというはこちらの方が効いているのですが、家計簿の格付・入力事務の能率が非常に向上していること、これらが効いておまして12%減となっていること、それから東日本大震災に係る対応におきまして、要員配置計画のおおむね5%以上の調整を行って、公表後に提出された家計簿を取り込んだ遡及演算を行っていること、こういったことを高く評価していただきましてAAとなっております。

続きまして、無償受託製表の部分でございますが、「人事院給与局委託業務」でございます。資料は109ページを御覧下さい。こちらにつきましては、投入量は計画に比べて23%の減となっております。この減少は「職業別民間給与実態調査」、こちらの調査計画の変更や、「家計調査」の特別集計における審査事務の能率向上、こちらが効いております。このように投入量が23%の減となっていること、東日本大震災に係る対応において要員配置計画の5%以上の調整を行って、「職種別民間給与実態調査」において平成20年から22年までの結果から被災3県を除いた集計をするなどの対応をしたことを高く評価していただきまして、AAとなっております。

続きまして、第2の3「統計の作成及び利用に必要な情報の蓄積、加工その他の処理に

関する事項」でございます。こちらは、資料の143ページを御覧下さい。こちらにつきましては、143ページ下段の方でございますが、システム稼働率が、国民向けサービス、また行政向けサービス双方とも99.9%となっておりでございます。それぞれの目標を達成しているということ、それから144ページの中段でございますが、公的統計の二次利用の周知・広報に積極的に取り組んだ結果、質問・相談件数が大幅に増加しているということ、それから網掛け部分でございますが、二次利用の利用者ニーズの把握に取り組みつつこれをサービスに反映させていること、こういったことを高く評価していただきましてAAとなっております

続きましてAAの最後の項目となりますが、第2の4「技術の研究に関する事項」につきまして、資料は149ページ以降を御覧下さい。こちらにつきましては、資料150ページの中段あたりに記述がございますが、オートコーディングシステムの研究やデータエディティングの研究等、研究成果を着実に実用化に結びつけているとともに、統計センターの業務への適応に向けてさらなる努力がなされていること、そして今後の業務運営の高度化・効率化に大きく寄与することが期待できるものであること、こういった点を高く評価していただいております。また、その下あたりでございますが、カンボジア統計局への技術支援、こちらは平成23年3月にカンボジアで初めての経済センサスを実施し、24年3月に公表するといった成果に結びつく取組を今までやってきたのですが、そういった点、また、その下の段でございますが、次世代統計利用システムの研究開発を総務省情報流通行政局と連携してやっているということ、こういった点を高く評価していただきまして、AAとなっております

以上がAAをいただいた項目についての評価内容でございます。

続きまして、Bをいただいた項目の説明に移りたいと思います。内訳でございますが、お手数ですが目次で御確認いただきたいのですが、目次の1ページ目の中段あたり、第2の1の(8)「個人企業経済調査」、こちらがBになってございます。また1枚おめくりいただきまして、無償受託製表の(8)ですが、「国土交通省総合政策局委託業務」、こちらがBとなっております。こちらにつきましては、詳細を簡単に御説明したいと思います。

まず「個人企業経済調査」につきましては、資料98ページを御覧下さい。こちらにつきましては、投入量は計画比1%減となっておりますが、また東日本大震災に係る対応では、岩手県・宮城県・福島県の8市町村を除いた集計を行うなどの対応をしていただいておりますが、この点については評価をしていただいているのですが、「しかしながら」の段落に書いてございますとおり、集計用乗率の使用誤りによって、過去の動向調査の集計結果に誤りが生じまして、こちら再集計を行っております。再集計を行った場合は、先ほどの評価基準にもございましたとおり200点の減点となりますので、この減点が効きましてB評価ということになってございます。

続きまして、「国土交通省総合政策局委託業務」でございますが、こちらは資料の126ページを御覧下さい。こちらの項目につきましては、投入量自体は5%減でございますが、

また東日本大震災に係る対応につきましては、要員配置計画の範囲内で対応していただいているのですが、「しかしながら」の段落でございますとおり、2つほど、「内航船舶輸送統計調査」におけるデータ取り込みの不具合による再集計と、「船員労働統計調査」におけるプログラム誤りによる再集計がございます。いずれも過去の集計分でございますが、再集計をしてございますので、200点減点となりましてB評価となっております。

以上がBをいただいた項目でございます

その他主な項目としまして、「国勢調査」に係る部分と「内部統制」に係る部分、「内部統制」は特に政独委の方からも特に重点的に見ますということをおっしゃっておりますので、説明をさせていただきたいと思っております。まず「国勢調査」につきまして、資料は79ページを御覧下さい。「国勢調査」につきましては、計画されていなかった業務を除いた投入量につきましては1%の減少となっております。また東日本大震災に係る対応につきましては、小地域概数集計、これを新たに行うことになったために要員配置計画のおおむね10%以上の調整が必要でありました。その中で公表に遅れることなく、きっちりと対応していただいたということをおっしゃっております。ただし、これも震災対応の一部なのですが、「しかしながら」の段落でございますとおり、人口等基本集計において、当初計画になかった被災3県の集計において、母子・父子世帯に係る結果表を作成する際にプログラム処理の誤りがございまして、再集計をしております。震災対応の中ではあったのですが、再集計がございましたので200点の減点ということになっておりまして、こちらはA評価ということになってございます。

続きまして、「内部統制」につきましては資料の166ページを御覧下さい。166ページの下の方でございますとおり、理事長のリーダーシップを十分に発揮できる環境を整備し、前年度に引き続き強化・充実が図られていること、また、情報セキュリティの確保やISMS認証の取得・更新による統計センターの信頼性の維持・向上に努めていること、それからPDCAサイクルに基づいたリスク対応等が適切になされていること、こういった点を高く評価していただきまして、A評価となっております。

以上が主な評価項目の評価内容でございます。

全体的な評価につきましては、評価調書案の前の方でございます全体的評価表、こちらにまとめてございますので、こちらの方で簡単ですが御説明したいと思います。全体的評価表の構成でございますが、大きく3つに分かれておりまして、ローマ数字Ⅰの「業務の実績に関する項目別評価総括」、それから4ページの上段でございますがⅡの「中期計画全体の評価」、それからⅢの「組織・業務運営等の改善、その他の提言」の構成になってございます。

Ⅰの「業務の実績に関する項目別評価総括」は、ただいま主な評価項目を御説明しましたが、そちらを要約してまとめておりますので、こちらの説明につきましては省略させていただきます。資料4ページの上段でございますが、Ⅱの「中期計画全体の評価」、こちらにつきましても先ほど御説明しました内容をふまえて、一番最後の行にな

りますが、全体としては、第2期中期目標期間の4年目となる平成23年度におきましては中期計画を十分達成したものと認められる、とまとめてございます。それから、Ⅲの「組織・業務運営等の改善、その他の提言」でございますが、こちらでいくつか御提言をいただいておりますので、御説明したいと思います。

まず、業務運営の効率化につきましては、これまでコスト構造分析を行って成果志向の業務運営に取り組んでおりますが、こういった取組を引き続き継続するとともに、要員投入量だけでなく、外部委託・ICT活用も含めたトータルのコストによる評価が行えるように取組を続けることが望まれる、といった御提言、また、次期中期計画・目標期間に向けてということでございますが、業務の性質に応じた評価指標の導入を検討するなど、より詳細な分析、評価が行えるような工夫、こういったことの必要性を御提言いただいております。また、OCR機の問題、といいますか不具合等の件がございましたが、そういった業務上問題が生じた場合には迅速かつ適切な対応を図っていくことが望まれるという御提言もいただいております。統計データの二次利用につきましては、積極的な周知・広報を行って、またニーズの把握を行って、国民サービスの向上及び法人の自己収入の増加につなげることが望まれる、という御提言をいただいております。内部統制につきましては、今後もさらなる充実・強化を期待する、と。また東日本大震災に係る対応につきましては、今回のことを踏まえまして、正確な統計の作成という使命を十分に発揮して取り組むこと、こういったことが期待されると。最後になりますが、統計センターにおきましては、ICTの活用といった機会が非常に増大していることもありまして、今後も外部からの不正アクセスやサイバー攻撃に対する対策を講じると共に、情報セキュリティ対策の徹底に引き続き取り組む必要がある、といった御提言もいただきました。

以上長くなりましたが、評価調書案についての御説明を終わりたいと思います。

(佐藤分科会長) ありがとうございます。ちょっと遅れて来まして申し訳ございません。それではただいまの御説明についてですね、御意見や御説明があればお願いいたします。

(藤原専門委員) 最後のところで御説明いただきました、サイバー攻撃に関する対策と書いてございますけれども、具体的に現在どういうことが行われているか、それから、確かこの1か月くらいの間に省庁横断的に色々な取組を始められるようなことをお聞きしたのでございますけれども、それについても少しお聞かせいただければと思います。

(上田総務課長) それでは私からお答えさせていただきます。統計センター自体のデータに関しましては、絶対に外部からアクセス出来ないように物理的に外れている、というふうに御理解いただきたいと思います。その上で、ホームページとかそういったものに関しましては、ベンダーさんにきちっと常時監視をしていただいておりますね、報告はとるようになっております。先般、霞が関への攻撃があった時には、我々も情報収集いたしまして、外

部から不正なアクセス等がないかということを確認いただきまして、無かったということですが、でも、どんどん攻撃の方法というのも変わってきておりますので、我々としても絶えず情報収集や連携をきちっとしていきたいと考えているところでございます。

(佐藤分科会長) 他に何かございますか。

(戸谷理事長) 前回の尖閣で色々な事件が起きたときには、e-stat という統計を提供する部分について DDoS 攻撃がございまして、かなりアクセスが難しいという状況が生じまして、その時は、はっきりとはわかりませんが、一旦、海外分だけのアクセスについては制御をかけて国内だけ、というのが一日くらい、という状況があったということです。やはり DDoS ともなってくるとですね、アクセスを制御するということになりますが、それ以降は特にそういうことは無かったと承知しております。

(磯部専門委員) 1点よろしいでしょうか。AAのところとBになったところを中心に御説明いただいて、そのBになったところで、再集計をすることになった中で特に2個再集計をしたものがありましたね。それってでも結局20年、21年、22年という昔のものについて誤りがわかったので再集計をした、ということで、23年度としては良く見つけたということでもあるのかなとも思い、23年度がしかしBになるといった不合理さを感じなくはないのですが、いくつか再集計があったらBではなくCになるのか、ということは客観的・定量的にどう図られているのかというのがよくわからない、ということと、今回発見されたということはつまり22年度の仕事にミスがあったという訳ですよ。22年度の評価に今から立ち戻って、少し反省点があった、ということが付記されるというようなことがあるのか、この2点を伺いたい。

(向井企画調整担当課長補佐) 先生御指摘のとおりでございまして、再集計につきましては、この第2期中期計画の期間内における評価におきましては、一律で200点減点となっております。1件2件、というよりは再集計があったこと自体に対しての評価ということでマイナスをすることになっております。また、過去の業務の、ある意味、ミスに対する減点を、発見した年度で引くということにつきましては、多数の先生方からも御疑問を頂いておりまして、これは次期中期計画の評価におきまして、こういった風に評価をするべきかということ、是非、御知恵を頂ければと思っております。

(磯部専門委員) ただ、1件だろうが何件だろうが200点一律というのは正確なのかどうかというのはちょっとよくわかりませんが。これは感想ですが。

(佐藤分科会長) 国勢調査の中にも確か修正があったりして、全体の中の一部なのだが、

全部がマイナス200点の評価になってしまうということではちょっと違和感があるかな、ということと、あとは過去のバグですね。それからコストの削減というよりも品質という観点で、これからソフト関係が重視されるといいでしょうか、バグの問題って必ず出てくると思いますので、今まではそういうことはあまりなかったのかもしれませんが、今後の中期の中ではやはりそういうところも出てくると思うので、ウェイト付けをするとかを考えて対処していったらよろしいのではないのでしょうか。

(佐藤分科会長) 他にいかがでしょうか。事務局さんの方で、時間が無いので省略したようなところとか補足しておきたいようなところがあればお願いいたします。

(向井企画調整担当課長補佐) 特にございませぬ。評価項目、とございますか指標につきまして、次回の会合の際には是非御知恵を頂ければという点をもう一度お願いさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(戸谷理事長) 説明があつたかと思ひますが、集計のバグにつきましては、審査課という課がございまして、そこで私どもの中では監督数という数字を出しているのですが、それぞれの表の主要な部分について集計プログラムのアベックを作つて、つまり2重に作つて、それで全体の数字の誤りを正す、あるいは足し上げの関係についても主な部分については2重にチェックを作つてそれぞれ別に作つて足し上げる、ということで、そういう制度をやつているので、かなりそれが効いていと思ひますが、今回のものを見ますと、例えば一つはそういうものをしていなかったというもの、もう一つは被災3県の関係で慌てて作りましてそこまでは出し入れが見られなかった、ということで、そこが出てしまつた。ただ基本的にかなり細かい出たり入つたり、含んだり含まなかったりですね、そういうこともありまして、担当だけを責めるわけにはいかず、局のほうにもある程度、前回と変わった場合には、「注意喚起お願ひします」とかですね、それぞれの担当についても「ここは難しい」とか「変わつている」とか、そういう部分の中でも注意喚起をしながらやつていきたいというふうにお願ひしております。

(佐藤分科会長) 他によろしいでしょうか。

(引頭専門委員) 今回の評価結果についてはこれで結構でございます。ですが、先ほどおつちやつた次回以降の評価の基準の見直しについて一点だけでございます。私自身も評価をつけさせていただいた過程で、要員投入量が意味することについて考える点がございました。具体的には結論として、同じ減少であったとしても、例えば調査の項目の変更で製表作業自体がなくなつてしまつたというものと、職員の方の大変な御努力で減少したというのが、同じ点数で評価されてしまつていまして。このように見ますと、もう少し実態や内容

を踏まえたうえで、評価基準や評価ポイントを策定していく必要があるのではと思いました。独立行政法人の業務の質を良くしていただくということが目的と理解しておりますので、次期以降は、是非踏み込んで、表面的な件数や数字の変化ではなく、中身を考えながらの基準設定がよろしいのではないかと思います。これは感想でございます。

(佐藤分科会長) ありがとうございます。それでは、「平成23年度に係る業務の実績に関する評価」につきましては、当分科会として、先ほど御説明いただきました資料統分31-1の評価調書案のとおりとしたいと思います。

8月29日に、親委員会であります総務省独立行政法人評価委員会が開催される予定であると伺っております。そこで私から、この評価書について報告したいと思います。

それでは、統計センターの「平成23年度に係る業務の実績に関する評価」についての御審議は、これで終わらせていただきます。全体を通じて何か御意見や御質問があればお願いいたします。

(大場専門委員) 大場です。今回随意契約は4つしかないということですが、入札の形にするというのは、かなり労力が必要だと思います。多くの部署で合議をした上で、入札の公告をして参加する企業を募っていることでしょうか。一者応札だとわかっているようなものをわざわざ入札にするのですとか、職員にかかる労力を考えると実際本当に入札にすることで得になっているのかどうか、契約の金額が下がるメリットとかける労力を比べると、実際はかえって損をしているというものの中にはあるのではないかという気が私はするんです。公共調達に適正化について、という通知に沿ってこういうことにせざるを得ないのかもしれませんが、実際にはかえってマイナスになっているところもあるのでは。親委員会でも議論をしていただいて、真の効率化というのを目指すように、少し基準の考え方を考えてみたら良いのではないかと分科会の委員でそう言っていた者がいたとお伝えいただければありがたいと思います。

(佐藤分科会長) 他になにかありますか。

特になし

(佐藤分科会長) ただいまの件は親委員会の方ですね、時間がありましたらその中でお話をしたいと思います。それでは、議事を終えるに当たりまして、統計センター理事長様から御挨拶をいただきたいと思います。

(戸谷理事長) 本日はお暑い中、ありがとうございます。ただいま委員会の総括として、東日本大震災の対応も含めまして、高い御評価をいただきまして大変ありがたく思ってい

る次第でございます。昨年度は色々な経常調査もずいぶんやっております、職員全体として、我々は予定通りに集計を行い、統計の公表を助けるということについて、自分たちの使命を再確認できたのではないかというふうに思っております。今後とも色々な調査に係ります御依頼、あるいは日程等につきまして、私どもといたしましてもできる限りこれを守っていくという姿勢でいきたいというふうに思っております。

それぞれの経常調査でございますが、だんだん欠測値もなくなりまして、少しずつ収束していくのではないかというふうに思っております。サービス業等の調査の上向きの数字もだんだんと例年水準に戻っているということですが、私が色々な説明を聞いておまして、ただ一点飲料水を買うという習慣はまだ家計調査の中でそこまで減っていない、これはいつまで続くのかなというふうに思っています。それから、いわゆる周期調査でございますが、一昨年実施した国勢調査の集計がそろそろ最終段階になっております。合わせまして、今、社会生活基本調査の集計を行っております、これがそろそろまとめという段階でございます。いろいろなレジャー活動とか子育ての時間とか、私どもの調査の中では少し異質なものですが、男女共同参画の方々等からも評価をいただいているものでございます。

それから、経済センサス-活動調査でございますが、これはまだデータをそれぞれ読み込んでいるところでございます。まだ、今年の初めの調査でございます、少しまだ震災の影響が残っているところがございまして、いくつかの活動をしていかなければならない、ということでございます。

それから公的統計の共通の業務基盤のサービスということで、そろそろこれも機械の入れ替え等の準備を進めているところでございますが、利用環境の充実ということで、私どもとしてもできるだけやっていきたいと、それからもう少し広がりますと、カンボジアの統計についての国際協力も少しやってきております。あるいは統計検定というものに、私どもの職員の士気向上もありまして、参加をいたしまして、何人かの職員は合格いたしました、何人かの職員は不合格になっておまして、我々も少し抜けているところがあったのではないかと、もう少し俯瞰的な統計教養があったほうがいいのかなと思っている職員もいるところでございます。社会全体の統計の利用をしていただくということで、少しでも職員全体におきまして取り組んでいければと思っております。

今後になりますが、今回お示しいただきました評価の考え方というのは、我々のやってきたことに大変温かい御理解をいただけたと思えます。またその考え方の基に我々の業務もやっていきたいと思っておりますので、引き続き御指導をよろしくお願いいたします。また、先ほどの御議論の中にもございましたが、統計センターの第3期に向けまして、見直し案というものを分科会の皆様に近々御審議をお願いするというような準備も進めておりますので、よろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

(佐藤分科会長) ありがとうございました。最後に、福井統計局長様から御挨拶をいただ

きたいと思います。

(福井統計局長) 本日は御多忙の中、昨年度の統計センターの業務実績の評価ということで、委員の先生方には大変精力的に評価を取りまとめいただきまして、本当にありがとうございました。戸谷理事長からお話ありましたが、御案内のとおり第2期中期目標の最終年度ということで、第3期に向けてこれから業務・組織全般的な見直しをしていく必要があるということでございます。今日の御審議の中にもございましたが、実績の評価指標、特に再集計についてまだまだ精緻化すべき、一律に減点をするのではなくて、精緻拡充していく視点もあります。定性的な評価ポイントにつきましても、できるだけ見える化をして客観的な定量化をして、国民の皆様方に御理解いただけるようなものにしていくということで、今後とも先生の御知恵をお借りして評価指標を適宜拡充していく必要があるということで、引き続き御指導いただければと思っております。御案内の通り、独法制度改革、私ども統計センターにつきましては行政執行法人ということで、一応政府内で御理解をいただいておりますけれども、これから法案の成立に向けて、まだまだ流動的でございます。一方において中期目標につきましては第3期に必要な事項がありますので、できるだけ先生方の御指導をいただきながら、統計センターの発展のために、また公的統計の整備・拡充に向けて私ども統計局との連携をこれまで以上に密接にとりながら進めてまいります所存でございます。引き続き御指導をお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

(佐藤分科会長) ありがとうございました。次回の分科会は8月20日(月)午前10時から開催するということでありまして、詳細は事務局から追って御連絡をするようにしますのでよろしくをお願いいたします。また、本日の資料につきましては、そのまま机の上に置いていただければ、後日事務局から送付させていただくとのことですので、よろしくをお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

以上